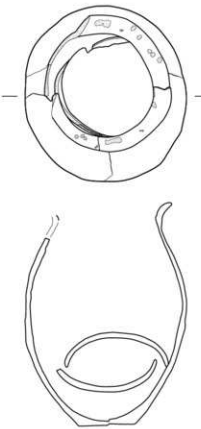
千葉県八千代市

内込遺跡 c 地点

—宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—



平成２６年度

鈴木章臣
八千代市教育委員会

凡　例

1．本書は，八千代市教育委員会が平成25年度民間開発等埋蔵文化財調査事業として実施した発掘調査の報告書である。この調査は宅地造成事業に伴うもので，事業者である鈴木章臣氏の委託を受けて実施した。

2．調査を行なった遺跡は内込遺跡ｃ地点（遺跡No.246）で，所在地は八千代市八千代台北十七丁目1624番1，2である。

3．教育委員会の執行体制は以下のとおりである。

調査主体者	加賀谷孝	八千代市教育委員会　教育長
	小林伸夫	八千代市教育委員会　教育次長
事務担当者	秋山利光	八千代市教育委員会教育総務課　主幹（文化財担当）
	常松成人	八千代市教育委員会教育総務課文化財班　副主幹
	宮澤久史	八千代市教育委員会教育総務課文化財班　副主幹
	佐藤麻里子	八千代市教育委員会教育総務課文化財班　主査
	宮下聡史	八千代市教育委員会教育総務課文化財班　文化財主事
調査担当者	轟　直行	八千代市教育委員会教育総務課文化財班　文化財主事

3．調査及び整理は以下のとおり実施した。

確認調査　平成25年度市内遺跡調査事業として，国庫及び県費の補助を受けて実施した。
期間　平成25年11月29日～12月17日　面積275㎡/2,388㎡

本調査　期間　平成26年2月10日～2月28日　面積216㎡

本整理　期間　平成26年10月7日～平成27年3月31日

4．出土した遺物のほか，写真・図面等の調査資料は八千代市教育委員会が保管している。

5．調査参加者は以下のとおりである。

本調査　笠川千代子，小弓場直子，佐藤悠登，佐藤里香，鈴木一代，野本雄太，林和也，原田雪子，矢原史希，山本みつ江（あいうえお順）

本整理　石井友菜，池山史華，小弓場直子，山下千代子

6．本書の遺物実測図は山下，小弓場，石井，池山，轟が作成し，遺物写真撮影は石井，轟が行ない，図版作成・遺物観察表編集・執筆は轟が担当した。

本 文 目 次

凡　例

目　次

第１章　調査経過及び概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
　第１節　調査に至る経緯と調査の概要
　第２節　内込遺跡の概要

第２章　検出された遺構と出土した遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

第３章　成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26

報告書抄録

挿 図 目 次

第１図　今回の調査地点と過去の調査地点
第２図　内込遺跡と周辺の遺跡
第３図　基本層序
第４図　内込遺跡ｃ地点遺構位置図
第５図　１号竪穴建物跡（１）
第６図　１号竪穴建物跡（２）
第７図　１号竪穴建物跡出土遺物
第８図　２号竪穴建物跡
第９図　２号竪穴建物跡出土遺物
第 10 図　３号竪穴建物跡（１）
第 11 図　３号竪穴建物跡（２）
第 12 図　３号竪穴建物跡（３）
第 13 図　３号竪穴建物跡（４）
第 14 図　３号竪穴建物跡出土遺物（１）
第 15 図　３号竪穴建物跡出土遺物（２）
第 16 図　４号竪穴建物跡
第 17 図　１Ｐ・２Ｐ・３Ｐ・４Ｐ・５Ｐ
第 18 図　６Ｐ・７Ｐ・８Ｐ・９Ｐ
第 19 図　10 Ｐ
第 20 図　表土・遺構外出土遺物
第 21 図　内込遺跡遺構位置図

表 目 次

第１表　内込遺跡と周辺遺跡
第２表　１号竪穴建物跡出土遺物観察表
第３表　２号竪穴建物跡出土遺物観察表
第４表　３号竪穴建物跡出土遺物観察表（１）
第５表　３号竪穴建物跡出土遺物観察表（２）
第６表　４号竪穴建物跡出土遺物観察表
第７表　ピット出土遺物観察表
第８表　表土・遺構外出土遺物観察表

写 真 図 版

図版１　遺構検出作業，１号竪穴建物跡遺物出土状況（北西から），１号竪穴建物跡 No. １・７出土状況（南から），１号竪穴建物跡（東から），１号竪穴建物跡カマド（南東から），２号竪穴建物跡遺物出土状況（南西から），２号竪穴建物跡 No. ２出土状況（南から），２号竪穴建物跡 No. ３出土状況（南から）

図版２　２号竪穴建物跡（南西から），３号竪穴建物跡遺物出土状況（北西から），３号竪穴建物跡 No. ７出土状況（南から），３号竪穴建物跡 No. ８・９・18 出土状況（東から），３号竪穴建物跡Ｐ７遺物出土状況（東から），３号竪穴建物跡（北西から），３号竪穴建物跡カマド遺物出土状況（南東から），３号竪穴建物跡カマド（南東から）

図版３　４号竪穴建物跡（南西から），１Ｐ，９Ｐ，10 Ｐ，１号竪穴建物跡出土（１）

図版４　１号竪穴建物跡出土（２），２号竪穴建物跡出土

図版５　３号竪穴建物跡出土（１）

図版６　３号竪穴建物跡出土（２），４号竪穴建物跡出土，１Ｐ出土，３Ｐ出土，６Ｐ出土，８Ｐ出土，10 Ｐ出土，表土・遺構外出土

八千代市の位置

内込遺跡の位置

第１章　調査経過及び概要

第１節　調査に至る経緯と調査経過

平成 25 年 10 月８日，鈴木章臣氏及び東栄住宅株式会社代表取締役社長西野弘氏（以下「事業者」という。）から，八千代市八千代台北十七丁目 1,624 番１，２の宅地造成事業のための確認依頼が八千代市教育委員会（以下「市教委」という。）に提出された。これに対して市教委は当該地に遺跡が所在する旨を回答し，取扱いの協議を行ない，確認調査を行なうこととした。同年 10 月 24 日に事業者から文化財保護法第 93 条第１項の規定による土木工事の発掘届が提出され，市教委は準備の整った同年 11 月 29 日に確認調査を開始した。

確認調査　確認調査は，平成 25 年度市内遺跡調査事業として国庫及び県費の補助を受けて実施し，対象面積 2,388 ㎡のうち 275 ㎡を調査した。その結果，遺構としては古墳時代竪穴建物跡７軒，奈良・平安時代竪穴建物跡１軒，土坑７基，近世・近代溝跡１条が確認された。

保存協議　確認調査の結果をもとに協議範囲を 938 ㎡とした。その上で市教委と事業者間で検討した結果，722 ㎡が盛土保存範囲となり，残りの 216 ㎡は記録保存の措置をとることとなった。事業者は平成 25 年 12 月 24 日付け保存協議書を提出し，市教委は平成 26 年１月 28 日付けでこれを了承した。市教委はこの保存協議書をもとに調査の見積もりを提示し，事業者は同年１月 31 日付けで調査依頼書を提出し，平成 26 年２月３日付けで市教委はこれを受託した。そして，同年２月４日付けで市・市教委・事業者の三者間で保存措置に関する協定を締結し，同日に市と事業者間で本調査の委託契約を締結した。市教委は準備が整った同年２月 10 日に本調査を開始した。

調査経過　10 日は機材搬入及び調査区の設定，12 ～ 13 日にかけて表土剥ぎを行ないつつ，検出された遺構の検出写真を撮影。14 日から遺構の調査を開始し，28 日にすべての調査を終了し，埋め戻しを行なった。

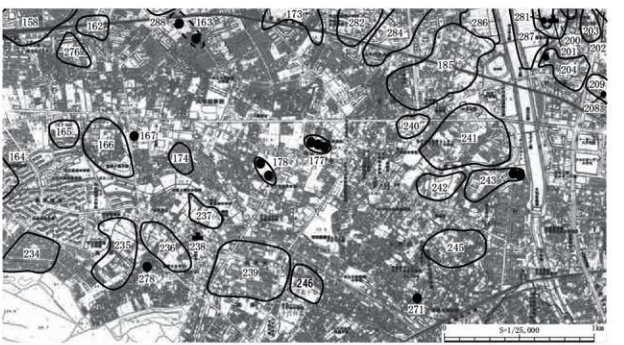
遺物の洗浄や注記といった基礎整理は同年３月３日～５日まで行なった。本整理では同年 10 月７日～ 12 月 26 日にかけて遺物の接合作業，遺物実測図の作成及びトレース，遺物観察表の作成を行ない，図版作成及び原稿執筆は平成 27 年１月５日～２月 10 日まで行なった。

第２節　内込遺跡の概要

遺跡の立地　内込遺跡は八千代市の南部に位置し，遺跡の北側には市の中央を流れる新川の支流である高津川が流れている。遺跡は高津川と高津川より伸びる小支谷によって開析された台地上，標高約 15 ～ 16 m前後の緩斜面に位置する。地質的には千葉段丘面上に立地し，沖積面との比高差は３～５ｍで，台地の形状は南側で高く北側に向かって緩やかに低くなっている。

これまでの調査　ａ地点は平成９年６月 30 日～同年 10 月 17 日にかけて発掘調査が行なわれ，古墳時代の竪穴建物跡 16 軒・掘立柱建物跡５棟・土坑８基，奈良・平安時代の竪穴建物跡５軒・掘立柱建物跡２棟，溝状遺構１条が検出された。また，遺構は検出されなかったが，縄文時代早期の田戸下層式土器，中期の阿玉台式土器，時期不明の磨石と石鏃が出土した。

第１図　今回の調査地点と過去の調査地点



第２図　内込遺跡と周辺の遺跡

第１表　内込遺跡と周辺の遺跡

遺跡No.	遺跡名	水系	種別	時代	遺跡No.	遺跡名	水系	種別	時代
158	仲ノ台遺跡	桑納川	包蔵地，集落跡	旧石器，縄文，奈良・平安，近世	236	門原遺跡	高津川	包蔵地	奈良・平安
162	ヲイノ作遺跡	桑納川	包蔵地，集落跡	旧石器，縄文	237	高津中村遺跡	高津川	包蔵地	奈良・平安
163	向山塚	桑納川	塚	中近世	238	高津館跡	高津川	城館跡	中近世
164	下船田遺跡	高津川	包蔵地	縄文，奈良・平安	239	高津新山遺跡	高津川	包蔵地，集落跡	旧石器，縄文，古墳，奈良・平安，中近世
165	木戸前遺跡	高津川	包蔵地	縄文	240	池の台遺跡	新川	集落跡	縄文，奈良・平安
166	高津梅屋敷遺跡	高津川	包蔵地	縄文，奈良・平安	241	川崎山遺跡	新川	包蔵地，集落跡	旧石器，縄文，弥生，古墳
167	木戸前塚	高津川	塚	中近世	242	北裏畑遺跡	新川	包蔵地	奈良・平安
173	向山遺跡	桑納川	包蔵地	旧石器，縄文，奈良・平安	243	上ノ山遺跡	新川	集落跡	弥生，古墳，奈良・平安
174	一本松前遺跡	高津川	包蔵地	奈良・平安	245	小板橋遺跡	新川	包蔵地，集落跡	古墳，中近世
177	庚塚第1塚群	新川	塚	中近世	**246**	**内込遺跡**	**高津川**	**包蔵地，集落跡**	**縄文，古墳，奈良・平安，中近世**
178	庚塚第2塚群	新川	塚	中近世	247	大溜入遺跡	高津川	包蔵地	縄文
185	白幡前遺跡	新川	包蔵地，集落跡	旧石器，弥生，古墳，奈良・平安，中近世	271	堰場台古墳	高津川	古墳	古墳
200	持田遺跡	新川	集落跡	縄文，古墳，奈良・平安，中近世	276	ヲイノ作南遺跡	新川	集落跡	縄文
201	正覚院館跡	新川	城館跡	中近世	278	宮の前塚	新川	塚	中近世
202	境作遺跡	新川	包蔵地，集落跡	古墳，奈良・平安	281	正覚院塚	新川	古墳	古墳
203	殿内遺跡	新川	集落跡	縄文，奈良・平安	282	坊山遺跡	新川	包蔵地	旧石器
204	浅間内遺跡	新川	集落跡	縄文，弥生，奈良・平安，中近世	284	井戸向遺跡	新川	包蔵地，集落跡	旧石器，縄文，弥生，古墳，奈良・平安，中近世
208	白搭遺跡	新川	包蔵地	旧石器，奈良・平安	286	志津世遺跡	新川	包蔵地	奈良・平安
209	根上神社古墳	新川	包蔵地	旧石器，奈良・平安	287	浅間下遺跡	新川	包蔵地	縄文，奈良・平安
234	高津遺跡	高津川	包蔵地	縄文，奈良・平安	288	長兵衛野南遺跡	桑納川	包蔵地，集落跡	縄文
235	高津宮ノ前遺跡	高津川	包蔵地	奈良・平安	292	堰場台遺跡	高津川	包蔵地，集落跡	縄文，古墳

ｂ地点は平成14年２月１日～同年５月９日にかけて発掘調査が行なわれ，縄文時代の陥穴１基・土坑１基を検出し，遺物では早期の条痕文系土器，阿玉台式並行の勝坂系土器が出土した。一方，古墳時代に位置付けられる遺構としては竪穴建物跡７軒，床硬化面１カ所，掘立柱建物跡１棟が検出され，平安時代の遺構としては竪穴建物跡２軒，掘立柱建物跡１棟が検出された。

周辺の遺跡　高津川流域には遺跡が点在している。内込遺跡の西側には谷を挟んで高津新山遺跡があり，幅広い時代の遺構・遺物が確認された。一方，新川寄りに所在する堰場台遺跡や堰場台古墳では縄文時代の陥穴や土坑，古墳時代中期の竪穴建物跡や石製模造品の工房跡，同後期の円墳の周溝や竪穴状遺構が確認された。他にも下船田遺跡や木戸前遺跡，高津梅屋敷遺跡，一本松前遺跡，高津宮ノ前遺跡，門原遺跡，高津中村遺跡，高津館跡，大溜入遺跡が高津川沿いに所在し，主に縄文時代や奈良・平安時代の遺構・遺物が確認されている。

第２章　検出された遺構と出土した遺物

内込遺跡ｃ地点では，古墳時代後期と考えられる竪穴建物跡４軒，土坑８基，奈良・平安時代と考えられる土坑２基が検出された。出土した遺物の総点数は 4,695 点で，その内訳は土器 4,688 点，土製品１点，鉄製品３点，石製品３点である。出土した土器は海綿骨針を含むか否かで２つの系統に分けることができ，海綿骨針を含む土器は 211 点が確認された。

第１節　古墳時代の竪穴建物跡

１号竪穴建物跡

時期：後期

検出面：ソフトローム層

切り合い関係：なし

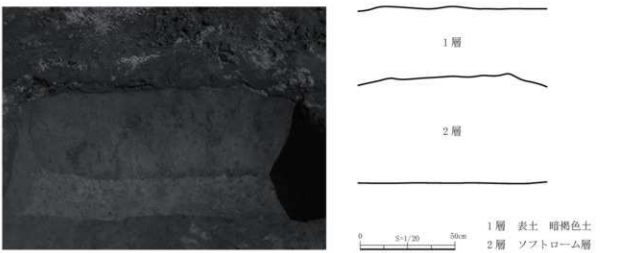
平面形態：方形

規模：長軸（6.89）m ×短軸 6.24m ×深さ 0.61m

検出構成要素：カマド１基，壁際溝，柱穴３基（Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３），梯子穴１基（Ｐ７），用途不明ピット３基Ｐ４・（Ｐ５・Ｐ６）

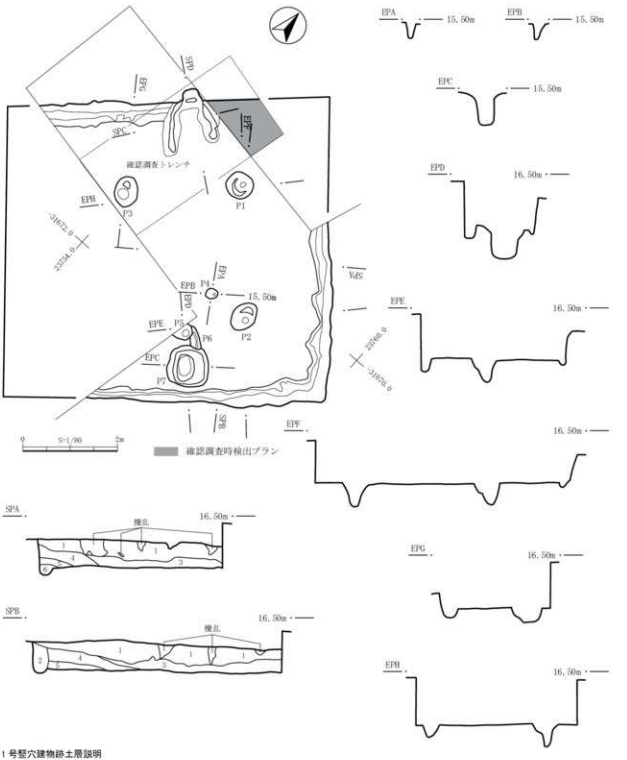
埋土：自然堆積と考えられる。SPB-SPB’では南東側の壁際溝から立ち上がった層が確認された。これは壁材が残されていたために生じたものと考えられるが，SPA-SPA’では確認されなかったため，壁材の残存は一部に限られるようである。

焼土：本竪穴建物跡の床面直上付近からは焼土が面的に検出された。一部の焼土は壁際溝に沿うように検出されており，これは焼土形成時に壁材が残されていたために壁際溝に焼土



第３図　基本層序

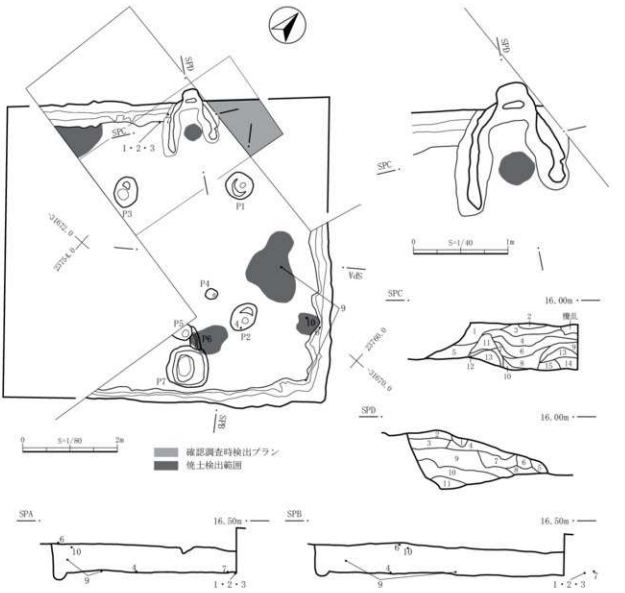
第４図　内込遺跡ｃ地点遺構位置図



1号竪穴建物跡土層説明

1層　黒褐色土（7.5YR3/2）しまり中，粘性中，ロームブロック・粒子微量，焼土ブロック・粒子微量含む。
2層　暗褐色土（7.5YR3/4）しまりやや弱い，粘性中，ロームブロック・粒子微量含む。
3層　褐　色　土（7.5YR4/4）しまりやや強い，粘性やや弱い，ロームブロック・粒子中量，焼土ブロック・粒子微量，黒褐色土ブロック・粒子微量含む。
4層　褐　色　土（7.5YR4/4）しまりやや強い，粘性中，ロームブロック中量，ローム粒子微量，黒褐色土ブロック・粒子微量含む。
5層　褐　色　土（7.5YR4/6）しまりやや弱い，粘性中，ロームブロック少量，ローム粒子微量含む。
6層　暗褐色土（7.5YR5/6）しまりやや強い，粘性やや強い，ロームブロック少量，ローム粒子微量含む。

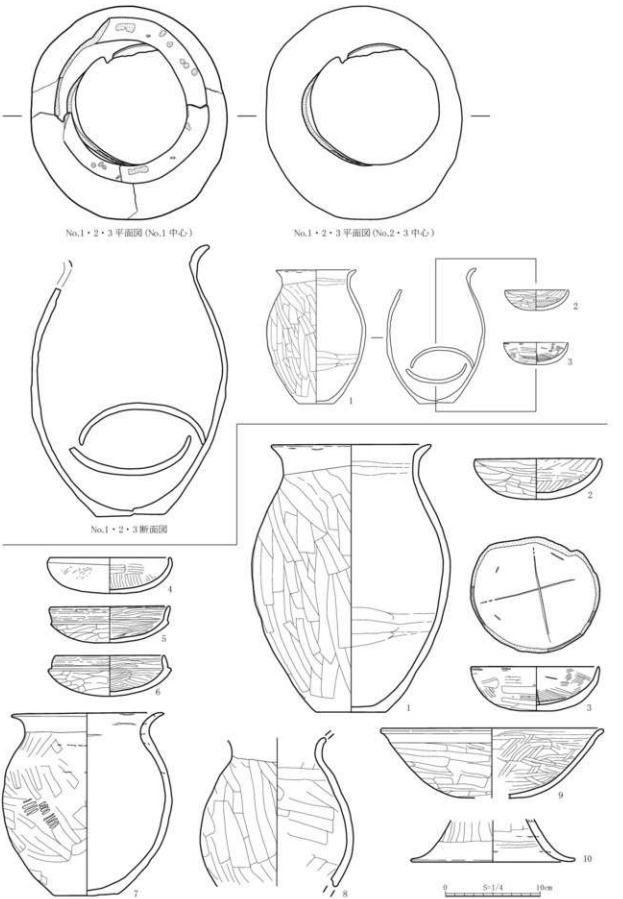
第５図　１号竪穴建物跡（１）



1号竪穴建物跡カマド土層説明

1 層 暗褐色土 (7.5YR3/4) しまり中，粘性やや弱い，ロームブロック・粒子微量，焼土ブロック微量，粘土ブロック微量，砂微量含む。
2 層 褐 色 土 (7.5YR4/4) しまり強い，粘性弱い，粘土ブロック微量，砂少量含む。
3 層 暗褐色土 (7.5YR3/4) しまりやや強い，粘性やや弱い，砂微量，炭化物微量含む。
4 層 暗褐色土 (7.5YR3/4) しまりやや強い，粘性弱い，粘土多量，焼土粒子微量，炭化物微量，砂微量含む。
5 層 褐 色 土 (7.5YR4/6) しまりやや弱い，粘性弱い。
6 層 褐 色 土 (7.5YR4/4) しまりやや弱い，粘性やや弱い，焼土ブロック・粒子中量含む。
7 層 褐 色 土 (7.5YR4/6) しまり弱い，粘性やや弱い，焼土ブロック多量，粘土ブロック微量含む。
8 層 赤褐色土 (5YR4/8　しまり弱い，粘性弱い，焼土ブロック・粒子多量，炭化物微量含む。
9 層 褐 色 土 (7.5YR4/6) しまりやや強い，粘性弱い，粘土ブロック少量，砂少量含む。
10 層 暗褐色土 (7.5YR3/4) しまり中，粘性やや弱い，ロームブロック・粒子微量含む。
11 層 暗褐色土 (7.5YR3/4) しまりやや強い，粘性やや弱い，ロームブロック少量，焼土粒子微量含む。
12 層 褐 色 土 (7.5YR4/6) しまり強い，粘性やや弱い，焼土ブロック微量，ロームブロック微量，砂微量含む。
13 層 にぶい黄橙色 (10YR6/4) しまり強い，粘性弱い，粘土主体層。
14 層 暗褐色土 (7.5YR3/4) しまりやや弱い，粘性やや弱い，焼土ブロック微量含む。
15 層 にぶい黄橙色 (10YR6/4) しまり強い，粘性弱い，焼土ブロック微量含む。粘土主体層。

第６図　１号竪穴建物跡（２）



第７図　１号竪穴建物跡出土遺物

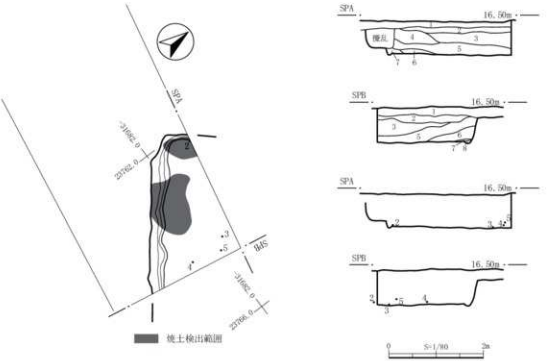
第２表　１号竪穴建物跡出土遺物観察表

No.	名称	残存状態	寸法	色調	調整	胎土	出土状況	備考
1	土師器 長胴甕	ほぼ完形 残存率90%	口径:17.0cm 最大径:21.0cm 器高:28.4cm	外面:橙色(5YR6/6)、黒色(7.5YR2/1、黒斑)、スス付着 内面:橙色(7.5YR7/6)	外面:口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ 内面:ヘラケズリ	石英、赤色粒、小石、砂粒	床面直上	No.2,3が中に収められていた。内面比熱による剥落あり
2	土師器 坏	ほぼ完形 残存率70%	口径:13.6cm 器高:4.3cm	外面:にぶい赤橙色(5YR5/4)、橙色(5YR6/6)、黒色(7.5YR2/1、黒斑) 内面:橙色(5YR6/6)、黒色(7.5YR2/1、黒斑)	外面:ヘラケズリ 内面:ミガキ	海綿骨針、石英、雲母、砂粒	床面直上	No.1の中に収められていた。内面比熱による剥落あり
3	土師器 坏	ほぼ完形 残存率70%	口径:(13.4)cm 器高:4.7cm	外面:にぶい赤橙色(5YR4/3)、黒褐色(7.5YR3/1、黒斑) 内面:にぶい赤橙色(5YR4/3)、小橙色(7.5YR3/1、黒斑)	外面:ヘラケズリ後ミガキ 内面:ミガキ	海綿骨針、石英、砂粒	床面直上	No.1の中に収められていた。内面に十字のキズが見られる
4	土師器 坏	口縁～底部 残存率40%	口径:(12.6)cm 最大径:(13.2)cm 器高:3.8cm	外面:暗褐色(7.5YR3.3)、黒褐色(7.5YR3/1) 内面:黒色(7.5YR2/1)	外面:ミガキ 内面:ミガキ	海綿骨針、砂粒	床面直上	
5	土師器 坏	口縁～底部 残存率30%	口径:(12.8)cm 器高:3.9cm	外面:橙色(5YR6/6)、黒褐色(7.5YR3/1) 内面:橙色(5YR6/6)、黒褐色(7.5YR3/1)	外面:口縁部ヨコナデ後ミガキ、胴～底部ヘラケズリ 内面:ミガキ	石英、砂粒	上～下層	
6	土師器 坏	口縁～底部 残存率40%	口径:(11.6)cm 器高:4.3cm	外面:暗赤褐色(2.5YR3/3)、暗赤褐色(5YR3/2) 内面:暗赤褐色(2.5YR3/3)、黒褐色(5YR3/2)	外面:口縁部ヨコナデ後ミガキ、胴～底部ヘラケズリ 内面:ミガキ	海綿骨針、石英、砂粒	上層	
7	土師器 甕	完形	口径:16.1cm 胴部最大径:18.5cm 底径:6.8 cm 器高:19.4cm	外面:にぶい赤褐色(5YR4/4)、黒褐色(5YR2/2) 内面:褐色(7.5YR7/4/6)、黒褐色(5YR2/2)	外面:口縁～頸部ヨコナデ、胴部ヘラナデ 内面:ナデ	海綿骨針、石英、砂粒	床面直上	内面剥落、外面に4条1単位のキズあり
8	土師器 甕	頸部～胴部 残存率30%	胴部最大径:(16.2)cm 残存器高:15.7cm	外面:明赤褐色(5YR5/8)、橙色(5YR6/8) 内面:橙色(7.5YR6/6)	外面:頸部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ 内面:ヘラナデ、ヘラケズリ	赤色粒、小石、砂粒	埋土中	
9	土師器 碗	口縁～底部 残存率40%	口径:(23.6)cm 底径:(7.4)cm 残存器高:7.0cm	外面:にぶい赤褐色(5YR5/3)、黒色(7.5YR2/1) 内面:黒色(7.5YR2/1)	外面:口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ 内面:ミガキ	海綿骨針、石英、砂粒	下層～床面直上	
10	土師器 高坏	脚部 残存率20%	底径:(17.4)cm 残存器高4.4cm	外面:暗赤褐色(2.5YR5/6、赤彩) 内面:橙色(2.5YR6/6)、黒褐色(7.5YR3/1)	外面:ヘラナデ後ヨコナデ 内面:ヘラナデ、ミガキ	石英、砂粒	上層	

が流入しなかったことが理由と考えられる。ただし，その形成時期について具体的に言及できる材料はない。一方で，Ｐ６を覆うように検出された焼土は本竪穴建物跡の廃絶後に形成されたと考えられる。

カマド：北西壁中央に位置。右袖の遺存状態は不良である。左袖部の構築は基底部ににぶい黄橙色の粘土をはりつけ，その上に焼土・ローム・砂を微量含んだ褐色土や暗褐色土がのせられていた。一方，右袖部の構築は基底部ににぶい黄橙色の粘土と暗褐色土をはりつけ，それらの上ににぶい黄橙色の粘土，さらにその上に粘土ブロックや砂を少量含んだ褐色土がのせられていた。天井部と考えられるものは認められなかった。煙道部は角度をもって立ち上がり，壁からの掘り込みは 24.6cm でＵ字状に掘られる。

遺物出土状況：埋土中からは５・６・８・１０が出土し，９は埋土下層～床面直上から出土した。一方，カマド付近の床面直上からは遺存状態の良い土器が数点横倒しになった状態で出土した。その中で特筆すべきは１・２・３である。１の長胴甕の中には２・３が納められており，３にフタをするように２が置かれていた。さらに，２・３の坏はそれぞれ一部が欠けている点は重要である。なぜなら，長胴甕の頸部内面径は 13.2 ㎝であるのに対し，２の最大径は復元から 13.5 ㎝，同じく３も復元から最大径 13.6 ㎝であり，２と３が完形品だった場合は長胴甕の中に納めることができないと考えられるからである。ただし，１



2号竪穴建物跡土層説明

1層 表 土
2層 極暗褐色土(7.5YR2/3) しまり強い，粘性弱い，ロームブロック・粒子微量含む。
3層 黒褐色土(7.5YR3/2) しまり強い，粘性やや弱い，ロームブロック・粒子少量含む。
4層 黒褐色土(7.5YR3/2) しまり中，粘性やや弱い，ロームブロック・粒子少量含む。
5層 暗褐色土(7.5YR3/4) しまりやや強い，粘性やや弱い，ロームブロック中量，ローム粒子少量含む。
6層 褐 色 土(7.5YR4/4) しまりやや弱い，粘性中，ロームブロック・粒子少量含む。
7層 褐 色 土(7.5YR4/4) しまりやや強い，粘性やや弱い，ロームブロック・粒子中量含む。
8層 褐 色 土(7/5YR4/6) しまりやや弱い，粘性やや弱い，ロームブロック・粒子中量含む。

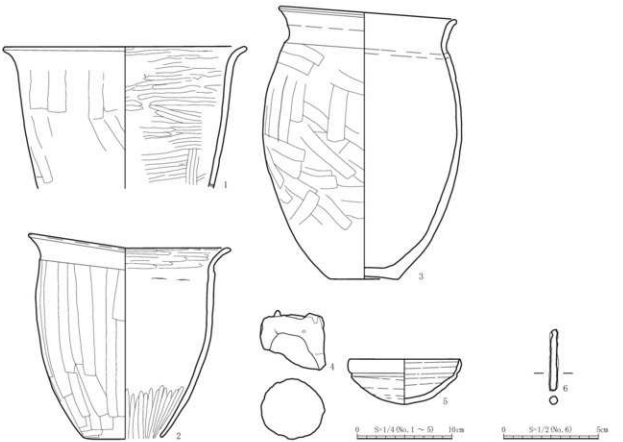
第８図　２号竪穴建物跡

に納めるため故意に２・３を割ったのか，それともすでに割れていたものを使用したのかは定かではない。

遺物:坏や長胴甕や甕，鉢，高坏の脚部が出土し，いずれも古墳時代後期に位置づけられる。３には内面に十字状のキズが付けられており，その出土状況の特殊性も考慮すると示唆的である。

２号竪穴建物跡

時期：後期
検出面：ソフトローム層
切り合い関係：なし
平面形態：不明
規模：深さ0.68m
検出構成要素：壁際溝



第９図　２号竪穴建物跡出土遺物

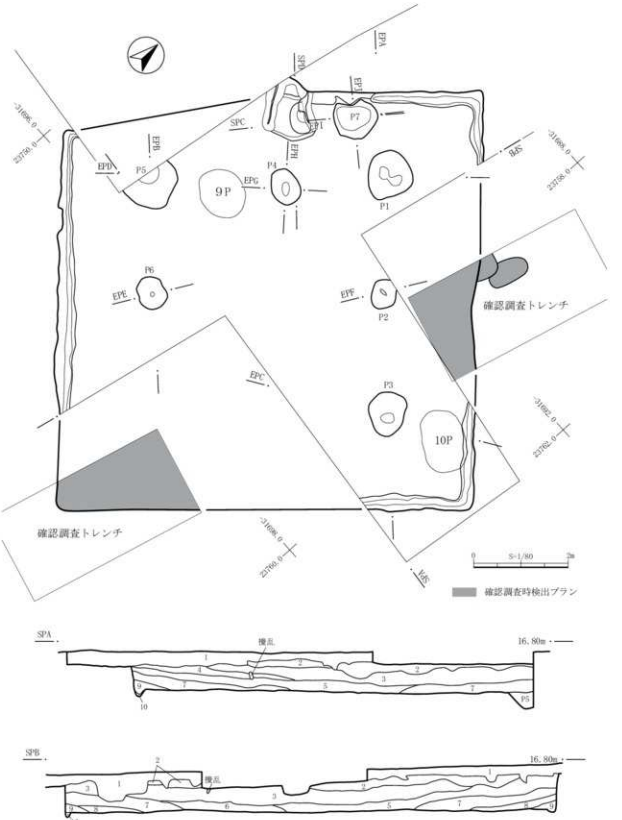
第３表　２号竪穴建物跡出土遺物観察表

No.	名称	残存状態	寸法	色調	調整	胎土	出土状況	備考
1	土師器 甑	口縁～胴部 残存率25%	口径:(25.4)cm 胴部最大径:(22.8)cm 残存器高:14.9cm	外面:にぶい橙色(7.5YR6/8), 黒色(7.5YR, 黒斑), 黒褐色 (7.5YR3/2, ススかす) 内面:にぶい橙色(7.5YR6/4)	外面:口縁ヨコナデ, 胴部 ヘラケズリ 内面:ミガキ	石英, 長石, 砂粒	埋土中	
2	土師器 甑	完形	口径:21.4cm 胴部最大径:18.9cm 底径:8.4cm 器高:21.8cm	外面:橙色(5YR6/6), 黒色 (7.5YR2/1, 黒斑) 内面:橙色(5YR6/6), 黒色 (7.5YR2/1, 黒斑)	外面:口縁ヨコナデ, 胴部 ヘラケズリ 内面:ミガキ	石英, 小石, 砂粒	床面直上	
3	土師器 長胴甕	完形	口径:18.4cm 胴部最大径:21.0cm 底径:7.2cm 器高:28.8cm	外面:暗褐色(7.5YR3/3), 黒色 (7.5YR2/2, 黒斑) 内面:浅黄橙色(7.5YR8/4)	外面:口縁～頸部ヨコナ デ, 胴部ヘラケズリ 内面:ナデ	長石, 小石, 砂粒	床面直上	
4	土師器 支脚	一部	最大幅:6.8cm 器高:6.3cm	橙色(7.5YR7/6)	器面が剥落しており, 調整 は判別不可	赤褐色粒, 砂粒	下層	
5	須恵器 坏	口縁～底部 残存率30%	口径:(11.6)cm 器高:4.8cm	外面:灰色(10Y5/) 内面:灰色(10Y5/)	外面:ロクロ, 沈線 内面:ロクロ	胎土緻密に より肉眼観察 不可	下層	
6	棒状 鉄製品	欠損	残存長:3.3cm 幅:0.3cm 厚さ:0.4cm				埋土中	

埋土：自然堆積と考えられる。

焼土：焼土は壁際溝の埋土を覆うように検出されたため，本竪穴建物跡廃絶後に形成されたと考えられる。

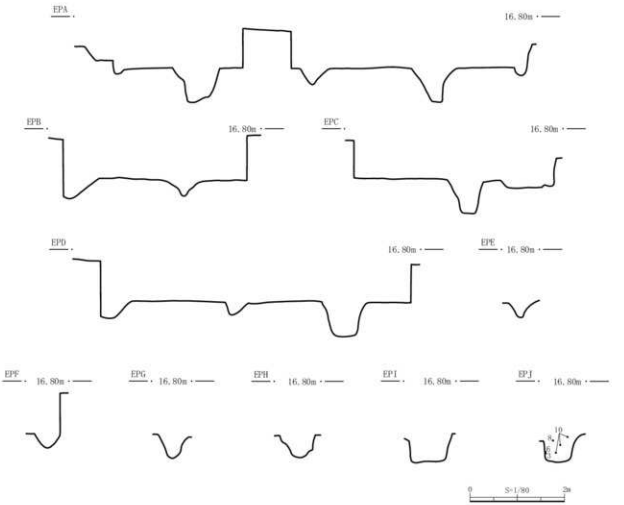
遺物出土状況：２と３が潰れた状態で床面直上から出土し，埋土中からは１・４・５・６が



第 10 図　3号竪穴建物跡（1）

3号竪穴建物跡土層説明

1層 表 土
2層 黒褐色土(7.5YR2/2) しまり中，粘性やや弱い，ローム粒子微量含む。
3層 極暗褐色土(7.5YR2/3) しまり中，粘性やや弱い，ロームブロック微量，ローム粒子少量，焼土ブロック微量含む。
4層 暗褐色土(7.5YR3/3) しまり中，粘性やや弱い，ロームブロック・粒子少量含む。
5層 黒褐色土(7.5YR3/2) しまり強い，粘性やや弱い，ロームブロック微量，ローム粒子少量含む。
6層 暗褐色土(7.5YR3/3) しまりやや強い，粘性やや弱い，ロームブロック微量，ローム粒子少量，焼土ブロック微量，粘土ブロック微量含む。
7層 黒褐色土(7.5YR3/2) しまりやや強い，粘性やや弱い，ロームブロック・粒子少量，焼土ブロック微量含む。
8層 黒褐色土(7.5YR3/2) しまりやや強い，粘性やや弱い，ロームブロック・粒子少量，焼土ブロック・粒子中量含む。
9層 黒褐色土(7.5YR2/2) しまり中，粘性やや弱い，ロームブロック・粒子微量含む。
10層 暗褐色土(7.5YR3/4) しまりやや弱い，粘性やや弱い，ロームブロック多量含む。



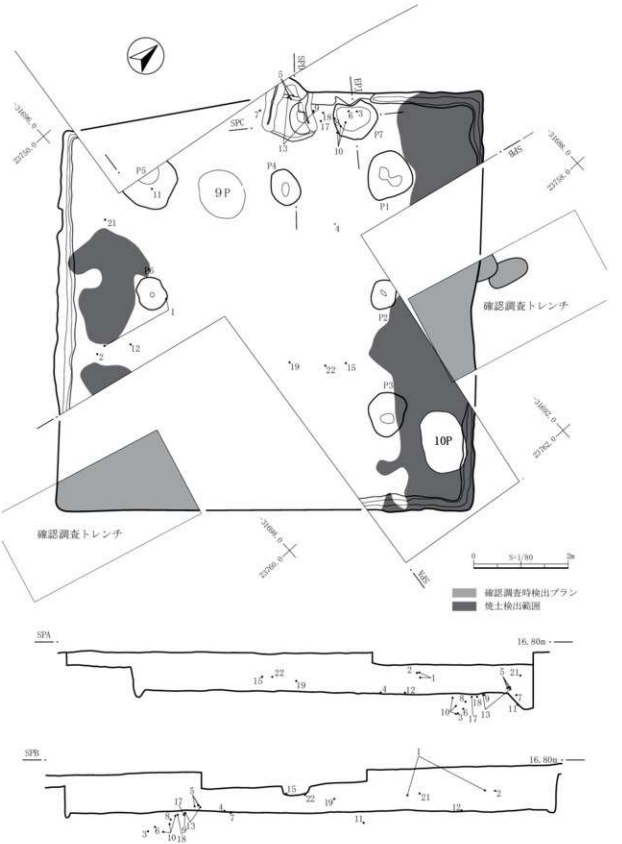
第 11 図　3号竪穴建物跡（2）

出土した。

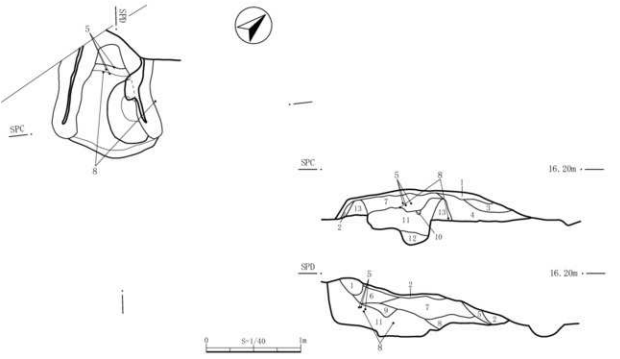
遺物：甕，長胴甕，支脚，須恵器坏，鉄製品が出土。

3号竪穴建物跡

時期：後期



第 12 図　3号竪穴建物跡（3）



3号竪穴建物跡カマド土層説明

1層 暗褐色土(7.5YR3/4) しまり強い，粘性弱い，ロームブロック・粒子微量，焼土ブロック微量含む。
2層 暗褐色土(7.5YR3/4) しまりやや強い，粘性やや弱い，ローム粒子微量，粘土ブロック微量含む。
3層 暗褐色土(7.5YR3/4) しまり中，粘性中，ロームブロック微量，粘土ブロック少量，砂少量含む。
4層 黒褐色土(7.5YR3/2) しまりやや弱い，粘性やや弱い，ロームブロック微量，粘土ブロック微量含む。
5層 暗褐色土(7.5YR3/4) しまりやや強い，粘性やや弱い，ロームブロック・粒子微量，砂少量含む。
6層 褐 色 土(7.5YR4/6) しまりやや強い，粘性弱い，砂少量，粘土ブロック少量，ロームブロック・粒子微量含む。
7層 暗褐色土(7.5YR3/4) しまりやや強い，粘性やや弱い，にぶい黄橙色(10YR6/4)粘土多量，砂中量，焼土ブロック微量含む。
8層 黒褐色土(7.5YR3/2) しまり強い，粘性弱い，焼土ブロック微量，ロームブロック微量含む。天井部崩落層。
9層 褐 色 土(7.5YR4/6) しまり弱い，粘性やや弱い，粘土ブロック少量，ロームブロック微量，砂微量含む。
10層 黒褐色土(7.5YR2/2) しまり弱い，粘性弱い，ロームブロック・粒子少量含む。
11層 赤褐色土(5YR4/8) しまりやや強い，粘性やや弱い，焼土ブロック・粒子多量含む。焼土主体層。
12層 褐 色 土(7.5YR4/4) しまり中，粘性弱い，ロームブロック・粒子微量含む。
13層 にぶい黄橙色土(10YR6/4) 粘土層。

第 13 図　3号竪穴建物跡（4）

検出面：ソフトローム層

切り合い関係：3号竪穴建物跡＜９Ｐ・10 Ｐ

平面形態：方形

規模：長軸 8.87m ×短軸 8.85m ×深さ 0.77m

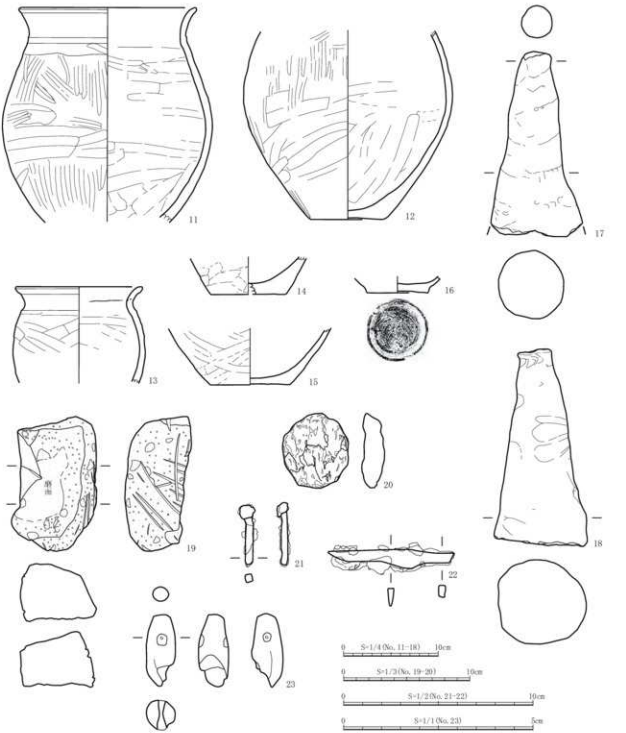
検出構成要素：カマド１基，壁際溝，柱穴（Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ５・Ｐ６），貯蔵穴（Ｐ７），用途不明（Ｐ４）

埋土：自然堆積と考えられる。

焼土：焼土は壁際溝の埋土を覆うように検出されており，本竪穴建物跡廃絶後に形成されたと考えられる。

カマド：北西壁中央に位置。両袖とも遺存状態は良好である。袖部の構築は基底部ににぶい

第 14 図　３号竪穴建物跡出土遺物（１）



第 15 図　３号竪穴建物跡出土遺物（２）

第４表　３号竪穴建物跡出土遺物観察表（１）

No.	名称	残存状態	寸法	色調	調整	胎土	出土状況	備考
1	土師器坏	口縁～底部残存率40%	口径:(13.8)cm 器高:5.7cm	外面:にぶい橙色(7.5YR7/3)，黒色(7.5YR2/1，黒斑) 内面:にぶい橙色(7.5YR7/3)，黒色(7.5YR2/1，黒斑)	外面:口縁ヨコナデ，胴部ヘラケズリ 内面:ミガキ	海綿骨針，石英，砂粒	上層	
2	土師器坏	完形	口径:13.0cm 器高:4.4cm	外面:にぶい橙色(7.5YR6/4)，黒色(7.5YR2/1，黒斑) 内面:にぶい橙色(7.5YR6/4)，黒褐色(7.5YR3/1，黒斑)	外面:口縁ヨコナデ，胴部ヘラケズリ 内面:ナデ		上層	内面に数条のキズあり
3	土師器坏	完形	口径:13.4cm 器高:3.7cm	外面:橙色(5YR6/6)，黒褐色(7.5YR3/1) 内面:橙色(5YR6/6)，黒褐色(7.5YR3/1)	外面:口縁ヨコナデ，胴部ヘラケズリ 内面:ナデ	海綿骨針，石英，砂粒	P7埋土中	
4	土師器坏	口縁～底部残存率25%	口径:(13.0)cm 器高:4.4cm	外面:にぶい橙色(5YR6/3)，黒色(7.5YR2/1，黒斑) 内面:にぶい橙色(5YR6/3)，黒色(7.5YR2/1，黒斑)	外面:口縁ヨコナデ後ミガキ，胴部ヘラケズリ後ミガキ 内面:ミガキ	海綿骨針，長石，小石，砂粒	床面直上	
5	土師器坏	底部～胴部	残存器高:3.8cm	外面:橙色(5YR6/6)，暗褐色(5YR3/3)，黒色(7.5YR2/1，黒斑) 内面:橙色(5YR6/6)，暗褐色(5YR3/3)，黒色(7.5YR2/1)，	外面:ヘラケズリ 内面:ミガキ	海綿骨針，石英，小石，砂粒	カマド埋土中	内外面とも被熱による剥落あり
6	土師器高坏	ほぼ完形 残存率90%	口径:19.2cm 底径:13.0cm 器高:16.1cm	外面:赤色(10R5/8，赤彩)，黒褐色(7.5YR3/1，黒斑) 内面:橙色(5YR6/6)，黒褐色(7.5YR3/1，黒斑)	外面:口縁部ヨコナデ，坏部ヘラケズリ，脚部ミガキ 内面:坏部ミガキ，脚部ヘラナデ	海綿骨針，石英，砂粒	P7埋土中	
7	土師器甕	ほぼ完形 残存率95%	口径:26.1cm 胴部最大径:24.9cm 底径:9.4cm 器高:27.3cm	外面:橙色(7.5YR7/6)，赤色(10R4/8)，灰褐色(7.5YR4/2，スス)，黒褐色(7.5YR2/2，スス)，黒色(7.5YR7/6，黒斑) 内面:橙色(7.5YR7/6)，黒褐色(7.5YR2/2，コゲ)	外面:口縁～頸部ヨコナデ，胴部ヘラケズリ 内面:ミガキ	石英，長石，小石，砂粒	床面直上	
8	土師器長胴甕	完形	口径:17.2cm 胴部最大径:20.4cm 底径:7.1cm 器高:29.0cm	外面:橙色(2.5YR6/8)，黒褐色(7.5YR2/2)，黒色(7.5YR2/1，黒斑) 内面:黒褐色(7.5YR2/2)，黒色(7.5YR2/1，黒斑)	外面:口縁～頸部ヨコナデ，胴部ヘラケズリ 内面:ヘラナデ	石英，雲母，長石，小石，砂粒	P7埋土中	
9	土師器長胴甕	ほぼ完形 残存率95%	口径:21.6(14.7)cm 胴部最大径:22.3(19.9)cm 底径:6.7(6.7)cm 器高:30.6(30.6)cm	外面:明赤褐色(2.5YR5/6)，にぶい赤褐色(5YR5/4)，黒色(7.5YR2/1，黒斑) 内面:にぶい赤褐色(5YR5/4)	外面:ヘラケズリ 内面:ナデ	石英，長石，小石，砂粒	床面直上	歪みが強い
10	土師器長胴甕	口縁～底部残存率70%	口径:(17.0)cm 胴部最大径:25.5cm 底径:11.2cm 器高:29.5cm	外面:橙色(7.5YR7/6)，黒褐色(7.5YR3/1，黒斑)，黒褐色(7.5YR3/2，黒斑)，褐灰色(10YR4/1，黒斑)，黒色(10YR2/1，スス) 内面:にぶい橙色(5YR7/4)，黒褐色(7.5YR3/1，黒斑)	外面:口縁～頸部ヨコナデ，胴部ヘラケズリ 内面:ヘラナデ	長石，砂粒	床面直上・7P埋土中	内面剥落
11	土師器甕	口縁～胴部残存率40%	口径:(18.2)cm 胴部最大径:(22.4)cm 残存器高:22.7cm	外面:橙色(7.5YR6/8)，黒褐色(7.5YR3/2，スス) 内面:橙色(5YR6/6)，灰褐色(7.5YR5/2)	外面:口縁～頸部ヨコナデ，胴部ヘラケズリ後ミガキ 内面:ヘラナデ，ナデ	海綿骨針，石英，砂粒	P8埋土中	
12	胴～底部甕	胴～底部残存率30%	胴部最大径:(22.0)cm 底径:(7.8)cm 残存器高:19.9cm	外面:明赤褐色(2.5YR5/6)，黒褐色(7.5YR3/1) 内面:明赤褐色(2.5YR5/6)，灰褐色(7.5YR5/2)	外面:ヘラケズリ後ミガキ 内面:ヘラナデ	海綿骨針，石英，赤色粒，砂粒	床面直上	内面剥落
13	土師器甕	口縁～胴部残存率30%	口径:13.3cm 胴部最大径:14.0cm 残存器高:10.2cm	外面:赤色(10R5/8)，黒褐色(7.5YR3/1) 内面:橙色(5YR6/6)，黒褐色(7.5YR3/1)	外面:口縁～頸部ヨコナデ，胴部ヘラケズリ 内面:ヘラナデ	海綿骨針，石英，長石，砂粒	カマド埋土中・床面直上	
14	土師器甕	胴～底部残存率40%	底径:(7.9)cm 残存器高:3.9cm	外面:にぶい橙色(7.5YR6/4)，灰褐色(7.5YR4/2，黒斑) 内面:橙色(5YR6/6)	外面:ヘラナデ 内面:ナデ	石英，砂粒	上層	
15	土師器甕	胴～底部残存率30%	底径:(8.4)cm 残存器高:6.0cm	外面:にぶい橙色(7.5YR7/4)，黒褐色(7.5YR3/1) 内面:橙色(7.5YR7/6)	外面:ヘラナデ 内面:ナデ	石英，長石，赤色粒，砂粒	上層	
16	土師器皿	底部～胴部	底径:6.5cm 残存器高:1.5cm	外面:にぶい橙色(7.5YR5/3)，黒色(7.5YR2/1，黒斑) 内面:黒色(7.5YR2/1，黒色処理)	外面:ナデ 内面:ミガキ	海綿骨針，石英，砂粒	埋土中	
17	土師器支脚	完形	最大幅:9.6cm 器高:19.5cm	灰褐色(5YR6/2)	ナデ	石英，砂粒	床面直上	
18	土師器支脚	完形	最大幅:9.8cm 器高:20.6cm	灰褐色(5YR6/2)，黄橙色(7.5YR8/8)	ナデ	石英，小石，砂粒	床面直上	指によるナデ痕や指オサエあり

第５表　３号竪穴建物跡出土遺物観察表（２）

No.	名称	残存状態	寸法	色調	調整	胎土	出土状況	備考
19	軽石	欠損	長さ:10.6cm 幅:6.2cm 残存厚:5.3cm				下層	磨面あり，鋭利な刃物によるものと思われるキズが多数
20	軽石	完形	長さ:5.9cm 幅:5.2cm 厚さ:1.8cm				埋土中	
21	棒状鉄製品	欠損	残存長:3.4cm 幅:0.4cm 厚さ:0.4cm				上層	
22	刀子	欠損	残存長:6.7cm 幅:刃部0.3cm，柄部0.4cm 厚さ:刃部0.9cm，柄部0.6cm				上層	
23	土製品	欠損		灰褐色(7.5YR4/2)		石英，砂粒	埋土中	土製勾玉の可能性あり

黄橙色の粘土がはりつけられていた。天井部も袖部と同じくにぶい黄橙色の粘土が使用されており，崩落した状態で検出された。燃焼部の掘り込みは８cm程度で，燃焼部の右側ではピットが１基検出された。煙道部は現況壁から 29 cm程度掘り込まれており，Ｕ字状に掘られたものと推察される。

遺物出土状況：床面直上からは４・７・９・10・12・17・18 が出土し，埋土中からは１・２・14・15・19・20・21・22・23 が出土した。一方，P7 の埋土中からは３・６・８・10 が出土し，カマド埋土中からは５・13 が出土した。

遺物：土器としては古墳時代後期に位置づけられる坏や高坏，甑，長胴甕，甕，支脚といったものが認められるが，奈良・平安時代に位置づけられる皿も出土した。さらに，表面に鋭利な刃物によるものと思われるキズ痕がある軽石や，刀子と思われる鉄製品，土製勾玉の可能性もある土製品も出土した。

４号竪穴建物跡

時期：後期？

検出面：ソフトローム層

切り合い関係：なし

平面形態：不明

規模：深さ 0.82m

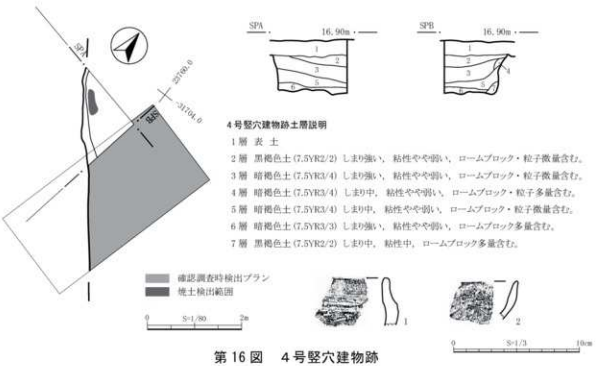
検出構成要素：なし

埋土：自然堆積と考えられる。

焼土：壁際溝付近で検出された。

遺物出土状況：埋土中から１・２が出土。

遺物：鉢と坏の口縁部片が出土。



第 16 図　４号竪穴建物跡

第６表　４号竪穴建物跡出土遺物観察表

No.	名称	残存状態	寸法	色調	調整	胎土	出土状況	備考
1	土師器 鉢	口縁部 破片	－	外面：明赤褐色(2.5YR5/6)，黒褐色(7.5YR2/1) 内面：黒色(7.5YR2/1)	外面：口縁ヨコナデ，胴部ヘラケズリ 内面：口縁ヨコナデ，胴部ヘラケズリ	海綿骨針，石英，砂粒	上層	
2	土師器 鉢	口縁部 破片	－	外面：黒褐色(7.5YR3/1) 内面：黒褐色(7.5YR3/1)	外面：ヘラケズリ後ミガキ 内面：ナデ	海綿骨針，石英	上層	

第３節　古墳時代～奈良・平安時代のピット

１Ｐ

時期：古墳時代後期～奈良・平安時代

検出面：ソフトローム層

切り合い関係：なし

平面形態：円形

規模：長軸 0.92m ×短軸 0.91m ×深さ 0.58m

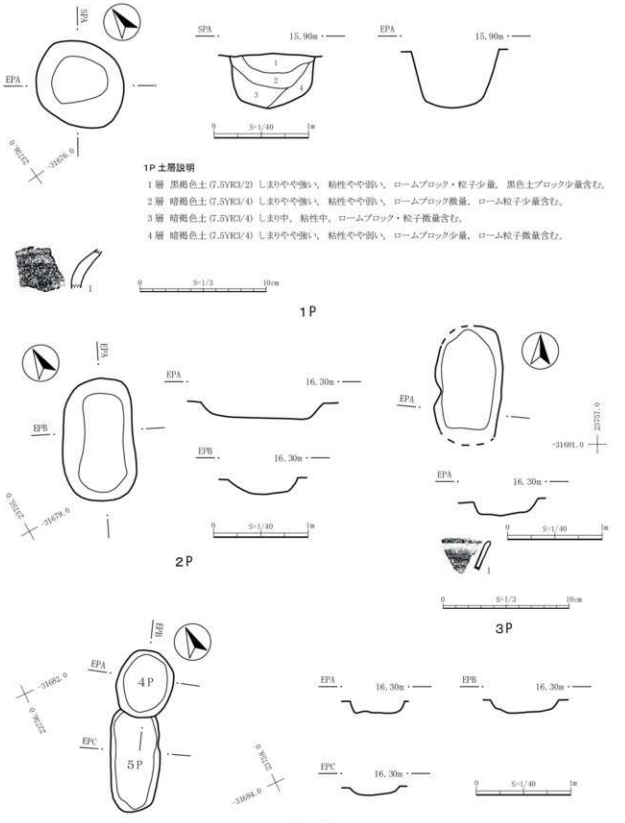
埋土：自然堆積と考えられる。

遺物出土状況：埋土中から１が出土。

遺物：長胴甕の頸部片が出土。

２Ｐ

時期：古墳時代後期～奈良・平安時代



第17図　1P・2P・3P・4P・5P

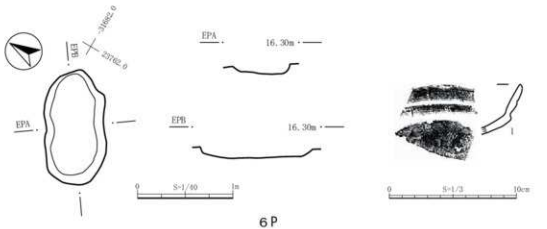
検出面：ソフトローム層
切り合い関係：なし
平面形態：楕円形
規模：長軸1.30m×短軸0.76m×深さ0.15m
遺物：なし。

3P
時期：古墳時代後期
検出面：ソフトローム層
切り合い関係：なし
平面形態：楕円形
規模：長軸不明×短軸0.71m×深さ0.17m
遺物出土状況：埋土中から1が出土。
遺物：鉢の口縁部片が出土。

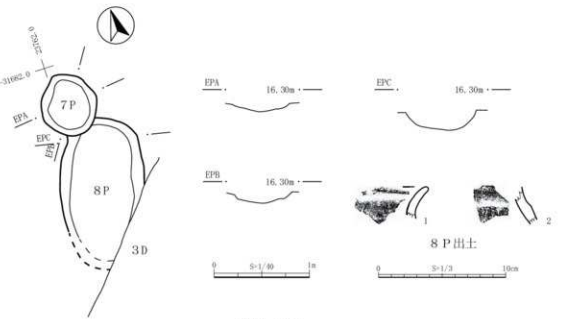
4P
時期：古墳時代後期～奈良・平安時代
検出面：ソフトローム層
切り合い関係：5P＜4P
平面形態：円形
規模：長軸0.72m×短軸0.58m×深さ0.12m
遺物：なし。

5P
時期：古墳時代後期～奈良・平安時代
検出面：ソフトローム層
切り合い関係：5P＜4P
平面形態：楕円形
規模：長軸不明×短軸0.52m×深さ14.0m
遺物：なし。

6P
時期：古墳時代後期
検出面：ソフトローム層
切り合い関係：なし
平面形態：楕円形
規模：長軸1.20m×短軸0.63m×深さ0.13m



6P



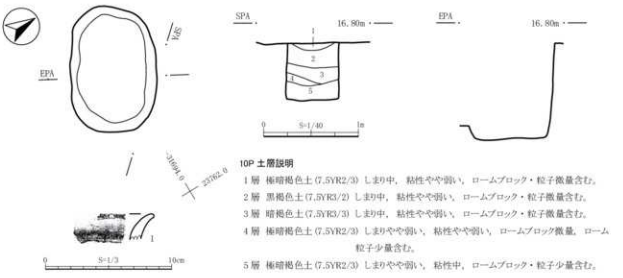
7P・8P

9P 土層説明

1層　黒褐色土(7.5YR2/2)　しまり中，粘性中，ロームブロック少量，ローム粒子微量含む。
2層　黒褐色土(7.5YR2/2)　しまり中，粘性中，ロームブロック・粒子微量含む。
3層　黒褐色土(7.5YR3/2)　しまりやや弱い，粘性中，ロームブロック・粒子微量含む。
4層　黒褐色土(7.5YR2/2)　しまり弱い，粘性中，ロームブロック微量，ローム粒子少量含む。

9P

第18図　6P・7P・8P・9P



第19図　10P

第7表　ピット出土遺物観察表

遺構No.	No.	名称	残存状態	寸法	色調	調整	胎土	出土状況	備考
1P	1	土師器 甕か 長胴甕	口縁部 破片	－	外面:にぶい黄橙色(10YR7/4) 内面:にぶい黄橙色(10YR7/4)	外面:ヨコナデ 内面:ヨコナデ	石英，小石，砂粒	埋土中	
3P	1	土師器 鉢	口縁部 破片	－	外面:明黄褐色(10YR6/6) 内面:明黄褐色(10YR6/6)	外面:ヨコナデ 内面:ヨコナデ	石英，小石，砂粒	埋土中	
6P	1	土師器 坏	口縁～胴部 破片	－	外面:明黄橙色(10YR7/6)，黒色(10YR2/1，スス) 内面:黒色(10YR2/1，スス)	外面:口縁部ヨコナデ，胴部ヘラケズリ 内面:口縁部ヨコナデ，胴部ナデ	石英，砂粒	埋土中	
8P	1	土師器 甕か 長胴甕	口縁部 破片	－	外面:黒色(7.5YR2/1) 内面:黒色(7.5YR2/1)	外面:ヨコナデ 内面:ヨコナデ	海綿骨針，石英，砂粒	埋土中	
8P	2	土師器 長胴甕	胴部 破片	－	外面:明赤褐色(2.5YR5/6) 内面:橙色(7.5YR6/6)	外面:ヨコナデ，ヘラケズリ 内面:ヘラケズリ	石英，小石，砂粒	埋土中	
10P	1	土師器 甕か 長胴甕	口縁部 破片	－	外面:黒色(7.5YR2/1) 内面:黒色(7.5YR2/1)	外面:ヨコナデ 内面:ヨコナデ	石英，小石	埋土中	

遺物出土状況：埋土中から1が出土。

遺物：坏片が出土。

7P

時期：古墳時代後期～奈良・平安時代

検出面：ソフトローム層

切り合い関係：8P＜7P

平面形態：円形

規模：長軸0.64m×短軸0.58m×深さ0.10m

遺物：なし。

8P

時期：古墳時代後期～奈良・平安時代

検出面：ソフトローム層
切り合い関係：８Ｐ＜７Ｐ
平面形態：楕円形
規模：長軸不明×短軸 0.88m ×深さ 0.19m
遺物出土状況：埋土中から１・２が出土。
遺物：甕の口縁部片，長胴甕の頸～胴部片が出土。

９Ｐ
時期：奈良・平安時代
検出面：３号竪穴建物跡埋土
切り合い関係：３号竪穴建物跡＜９Ｐ
平面形態：円形
規模：長軸 1.12m ×短軸 0.94m ×深さ 0.46m
遺物：なし。

10 Ｐ
時期：奈良・平安時代
検出面：３号竪穴建物跡埋土
切り合い関係：３号竪穴建物跡＜ 10 Ｐ
平面形態：楕円形
規模：長軸 1.33m ×短軸 0.91m ×深さ 1.00m
遺物出土状況：埋土中から１が出土。
遺物：甕の口縁部片が出土。

第４節　表土採集資料

第 20 図　表土・遺構外出土遺物

第８表　表土・遺構外出土遺物観察表

No.	名称	残存状態	寸法	色調	調整	胎土	備考
1	土師器 長胴甕？	底部	底径4.1cm	外面：にぶい黄橙色(10YR6/4) 内面：にぶい黄橙色(10YR6/4)，黒色(7.5YR2/1)	外面：ナデ 内面：ナデ	石英，砂粒	
2	須恵器 壺？	底部～胴部	－	外面：灰色(10Y5/) 内面：灰色(10Y5/)	ロクロ	海綿骨針，石英	
3	砥石	欠損	－				片岩系か？

第３章　成果と課題

今回の調査では古墳時代後期の竪穴建物跡４軒，古墳時代後期～奈良・平安時代と考えられるピット10基が検出された。東隣のａ地点，北隣のｂ地点でも古墳時代後期～奈良・平安時代の竪穴建物跡群や掘立柱建物跡群，ピット群が検出されており，ｃ地点で検出された遺構群はこれらの地点で検出された遺構群と共に１つの集落を構成するものと考えられる（第21図）。

今回の調査で特筆されるのは，１号竪穴建物跡から出土した長胴甕の中で坏が口縁部を合わせた状態で出土したことである。類例がほとんどないため，これがカマド祭祀に伴うものかどうかは判断できないが，その出土状況の特殊性は興味深いところである。今後の資料蓄積が待たれる。

また，今回出土した土器の胎土は大まかに海綿骨針を含むものと含まないものの２系統に分けられる。こうした胎土の違いは，内込遺跡の集落に住んでいた人々が複数のルートを使用して土器を入手していた可能性を示唆しており，この点を具体的に検討するには今後自然科学分析による胎土の特定が行なわれる必要がある。

参考文献

森　竜哉・玉井庸弘　2001『千葉県八千代市　内込遺跡発掘調査報告書　―宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査―』八千代市遺跡調査会

森　竜哉　2003『千葉県八千代市　内込遺跡ｂ地点発掘調査報告書　―宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査―』岩井富久

第 21 図　内込遺跡遺構位置図

遺構検出作業

1号竪穴建物跡遺物出土状況（北西から）

1号竪穴建物跡 No. 1・7出土状況（南から）

1号竪穴建物跡（東から）

1号竪穴建物跡カマド（南東から）

2号竪穴建物跡遺物出土状況（南西から）

2号竪穴建物跡 No. 2出土状況（南から）

2号竪穴建物跡 No. 3出土状況（南から）

写真図版２

２号竪穴建物跡（南西から）

３号竪穴建物跡遺物出土状況（北西から）

３号竪穴建物跡 No. ７出土状況（南から）

３号竪穴建物跡 No. ８・９・18 出土状況（東から）

３号竪穴建物跡Ｐ７遺物出土状況（東から）

３号竪穴建物跡（北西から）

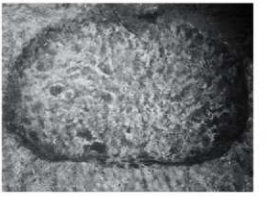
３号竪穴建物跡カマド遺物出土状況（南東から）

３号竪穴建物跡カマド（南東から）

４号竪穴建物跡（南西から）

１Ｐ（西から）

９Ｐ（南から）



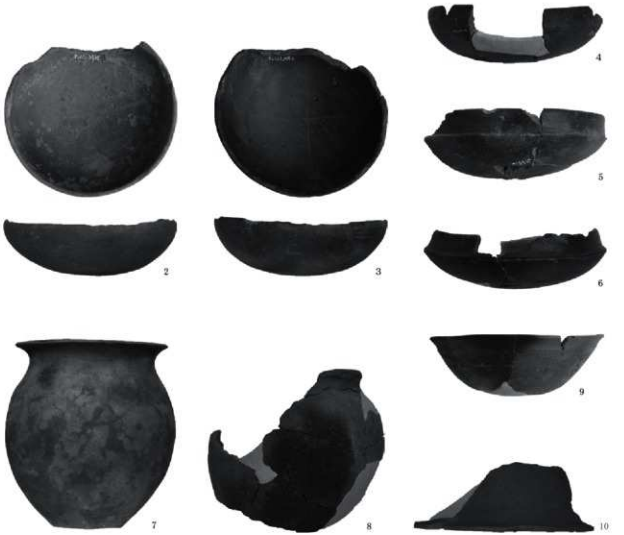
10Ｐ（南から）

1・2・3

1・2・3

1

１号竪穴建物跡出土（１）



１号竪穴建物跡出土（２）

２号竪穴建物跡出土

３号竪穴建物跡出土（１）

写真図版６

３号竪穴建物跡出土

４号竪穴建物跡出土

１Ｐ出土

３Ｐ出土

６Ｐ出土

８Ｐ出土

10Ｐ出土

表土・遺構外出土

報告書抄録

ふりがな	ちばけんやちよし うちごめいせきしーちてん
書名	千葉県八千代市内込遺跡c地点
副書名	宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
編著者名	轟　直行
編集機関	八千代市教育委員会
所在地	〒276-0045　千葉県八千代市大和田138番地2　TEL 047(483)1151代表
発行年月日	西暦2015年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所　在　地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
うちごめいせきしーちてん 内込遺跡c地点	やちよだいさんじゅうななちょうめ 八千代台北十七丁目 1,624番1，2	122211	246	35度42 分40秒	140度05 分25秒	2014.02.10 ～ 2014.02.28	216	宅地造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
内込遺跡c地点	包蔵地 集落跡	古墳時代	竪穴建物跡4軒， 土坑8基	土師器・須恵器・鉄製品・石製品	
		奈良・ 平安時代	土坑2基	土師器・須恵器	
要約	今回の調査では古墳時代後期に位置づけられる竪穴建物跡4軒，古墳時代後期～奈良・平安時代に位置づけられる土坑10基を検出した。 1号竪穴建物跡出土遺物では長胴甕の中に2点の坏が口縁部を合わせた状態で出土した点が注目される。また，3号竪穴建物跡は9m近くに及ぶ大型建物跡であり，出土遺物も多彩であった。 出土土器は海綿骨針を胎土に含むものと含まないものに分けられ，内込遺跡の集落に住んでいた人々が複数のルートを使用して土器を入手していた可能性が示唆される。この点を具体的に検討するには今後自然科学分析による胎土の特定が行なわれる必要がある。				

千葉県八千代市　内込遺跡ｃ地点
―宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―

発　行　日	平成 27 年 3 月 31 日
編　　集	八千代市教育委員会　教育総務課 〒 276-0045　八千代市大和田 138-2 ＴＥＬ　047-483-1151（代表）
発　　行	鈴木章臣
印　　刷	株式会社富士印刷